



性自認(Gender Identity)って？

A. 自分の心の性をどう認識しているか、だよ。



「セックス(SEX) = 生まれたときの性(身体性)」が生物学上の性、ジェンダーが「社会的・文化的な性」だったね。

これに対して、本人が自分の性をどう認識しているか、を「性自認(ジェンダーアイデンティティ= Gender Identity) = 心の性」というんだ。

“その人の実感する性(ジェンダー)”ということだよ。

自分はどんな性だ、と考えているのか。

男性・女性・どちらでもない・まだわからない、といろいろな考えがあるよ。

生まれたときに割り当てられた性ではない、と感じている人がたくさんいるんだ。

「生まれたときの性」と「心の性」は一致するもの、とこれまでは考えられてきたよ。

でも、そうでないかも、と考えた方が、じつは合理的だったりするんだ。

人の「生まれたときの性」が「心の性」と一致する、とは限らないんだね。

「生まれたときの性」が男性で「心の性」は男性だと自認するとき、性自認は “男性” ということになる。

「生まれたときの性」が男性で「心の性」は女性だと自認するとき、性自認は “女性” ということだね。

ここで「身体の性」と言わないのは、女性や男性のカテゴリーに入らない性器や内臓を持つ「インターセックス(Intersex)の人たちもいるからなんだ。

「生まれたときの性」と「心の性」が一致するとき、その人は「シスジェンダー〇〇」と呼ばれるよ。

シス(Cis)は「同じ側にいる」という意味で、生まれたときに識別された性と同じ側に留まる、という意味合いだね。

「生まれたときの性」が男性で「心の性」は男性だ、と自認するとき、性自認は “シスジェンダー男性” だよ。

「生まれたときの性」と「心の性」が一致しないとき、その人は「トランスジェンダー〇〇」と呼ばれるよ。

トランス(Trans)は「向こう側にいる」という意味で、生まれたときに識別された性を超えて、という意味合いだね。

「生まれたときの性」が男性で「心の性」は女性だ、と自認するとき、性自認は “トランスジェンダー男性” だよ。

Aジェンダー(エイジェンダー／アジェンダー、agender)と呼ばれる人たちもいる。
Aジェンダー(agender)は「～ではない」「～のない」という意味のあるギリシャ語のαから派生した a-とgebderを組み合わせているんだ。
「自分は男でも女でもない」自分はどのジェンダーでもない、という性自認だね。

クエスチョニング(Questioning)と呼ばれる人たちもいるよ。
自分の性別が解らない人や意図的に決めていない人、決まっていない人、模索中である人たちのことを指すんだ。
性自認について「まだ決まっていないと思う」「解らない、違和感がある」「ひとつに決められるものではない」などに当てはまるのがこのクエスチョニングなんだ。

これらはほんの一部で、もっと細かく分類されていたりするよ。
これらは非常に個人的なものだし、時間とともに変化していく可能性のある、とても流動的で不安定なもの、なんだ。
子どものころに自覚する人もいるし、大人になってから気付く人もいるんだ。

性自認(ジェンダーアイデンティティ)＝こころの性は「生まれたときの性」(身体の性別や戸籍の性別)や、ジェンダー(周囲が期待している社会的な性別)とは別物なんだ。
一致する場合もあれば(「シスジェンダー」と言うんだっただね。「フツー」という呼びかたではないよ)、それとは異なる場合もある(「トランスジェンダー」と言ったよね)。
人の数だけ、さまざまにあるんだ。

いまの世の中は「性」を男性と女性という2分割で考えがちだよ。
どちらでもない、どちらかでは括り切れない感じを持っている人たちがいるし、その時々流動的に変化すると感じる人たちがいる。
今あるカテゴリーのどれもがしっかりとこない、と感じる人もいるだろうね。

自分の性自認(ジェンダーアイデンティティ)＝こころの性、について、じっくりと考えてみると、ひょっとして今までとは違うものが見えてくるかもしれない。
そして、自分のこころの性も、他者のこころの性も尊重していければ素敵だね。
千差万別の性自認(ジェンダーアイデンティティ)＝こころの性、の持ち方があって、さまざまな在りようがあるのだから。

今回は、性自認(ジェンダーアイデンティティ)＝こころの性、を踏まえて、[性的指向\(Sexuality、Sexual Orientation\)＝好きになる性](#)、について考えていくよ。

《MENU》

《[ジェンダー\(Gender\)＝社会的な性って？](#) [性的指向\(Sexuality\)って？](#)》

2024-02-13 掲載